

1-3-1-01					
分類	1-3-1 給食センター	担当課	学校給食センター		
事業名	<b>給食センター運営経費(賄材料費)</b>				
事業内容・目的	学校給食は、栄養バランスに優れた献立を通し、成長期にある児童生徒に必要な給食を提供するとともに、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけることを目的とする。				
評価指標	1. 児童・生徒等人数等及び賄材料費				
備考					
年度	H26	H27	H28	H29	H30
実施計画	12ヵ月	12ヵ月	12ヵ月	12ヵ月	12ヵ月
目標値1	1,888名	1,887名	1,867名	1,928名	1,895名
目標値2					
決算額	<b>98,154,760</b>	<b>99,359,925</b>	<b>100,148,246</b>	<b>100,447,900</b>	

平成29年度実績

年間給食供給計画日数は、完全給食206日・お弁当の日5日の計211日としています。

ただし、小学校195日以内・中学校1、2年生195日以内、3年生185日以内、認定こども園（1号認定）が185日以内、認定こども園（2号認定）が219日以内とし基本的には、各学校統一しています。

賄材料の内訳として、主食26,343,067円、副食58,992,186円、飲料用牛乳15,209,611円となっています。主食の割合としましては、米飯62%、パン27%、麺11%となっており米・パンの小麦粉につきましては、100%道内産を使用しております。

食材の野菜につきましては、57.2%道内産を使用しています。

地場産の購入につきましては、乳製品16,654,450円、鮭・ホタテの水産物726,624円、野菜の一部購入（別海高等学校）が91,200円で合計17,472,274円、賄材料費全体の約17.4%が地場産となっています。地場産の利用につきましては、出来るだけ多く取り入れるように乳製品・魚介類・野菜を使ったメニューを考えて努力をしています。

平成29年度は、味が安定するように努め、新しいメニューや行事食等の提供で残食の減少が見られたので、今後においても継続をしていきます。

栄養教諭が各学校を回るにより「顔が分かる人が作っている給食」ということで、好き嫌いや残食が減る傾向もあります。現場の声を直接聞き、献立の参考にもしています。

また、食育を通じて、食の大切さを児童・生徒等に伝えることを取り組んでいきます。

1-4-1-01					
分類	1-4-1 給食センター	担当課	学校給食センター		
事業名	<b>給食助成事業経費</b>				
事業内容・目的	準要保護及び特別支援教育就学児童生徒への給食費助成				
評価指標	1. 就学援助人数				
備考					
年度	H26	H27	H28	H29	H30
実施計画	○	○	○	○	○
目標値1	12ヵ月	12ヵ月	12ヵ月	12ヵ月	12ヵ月
目標値2	述人数113名	述人数136名	述人数146名	述人数155名	述人数155名
決算額	<b>5,494,366</b>	<b>6,411,557</b>	<b>6,641,547</b>	<b>7,477,871</b>	

平成29年度実績

教育委員会が認定した児童生徒の保護者に対し、給食費全額を適切に助成をしました。

小学校 195日以内 (1食単価 249円)

中学校1、2年生 195日以内 (1食単価 289円)

中学校 3年生 185日以内 (1食単価 289円)

年間給食費

小学校 48,555円

中学校1、2年 56,355円

中学校3年生 53,465円

準要保護児童生徒人数 小学校60名、中学校42名 計 102名

特別支援学級児童生徒人数 小学校44名、中学校9名 計 53名

予算額7,552,000円 執行額7,477,871円 残額74,129円 (執行率99.0%)